

アメリカ出張報告

小尾 美千代

出張先：アメリカ合衆国ワシントン D. C.

期間：2014年 8月 27日～9月 2日

2014年 8月 28日から 31日までワシントン D. C. で開催された A P S A (American Political Science Association, アメリカ政治学会) の第 110 回年次大会へ参加した。今年の大会テーマは “Politics after the Digital Revolution” (デジタル革命以降の政治) であり, 政府による市民の個人情報収集, 政策決定過程におけるビッグ・データの利用, ソーシャル・メディアの拡大による影響, 政治運動におけるデータ利用, 政府による情報統制, 新たな安全保障問題としての情報戦など, デジタル技術が政治にもたらす影響に焦点が当てられ, 多くのテーマ・パネルが開かれた。

出張者は主に「国際政治経済 (International Political Economy)」と「科学, 技術, 環境政策 (Science, Technology, and Environmental Politics)」の各分科会が主催する複数のセッションや, 「世論と気候変動への新たなアプローチ」(Theme Panel: New Approaches to Public Opinion and Climate Change) などのテーマ・パネルのセッションに参加し, アジア太平洋地域を含めた自由貿易協定や環境問題, また地域秩序などに関連する研究報告を聴講した。アジア太平洋地域に関する報告としては, 中国の独占禁止法を事例としたグローバル・ガバナンスにおける「公平性」を扱った研究や, 韓国のハイテク産業の成長を官庁 (科学省) の役割に注目した研究などの報告を聞くことができた。

また, 国際政治経済学の「複合的グローバルシステムにおけるパワー (Power in a Complex Global System)」のセッションは, 同じタイトルの編著者らによるパネルディスカッション形式の報告であった。パネリストの一人で, 同書の第 6 章にあたる「銃, バター, そしてさらなる銃: 3/11 を通じた日本の安全 (Guns, Butter, and More Guns: Japanese Security through March 11th)」の共著者であるレイニー (D. Leheny) プリンストン大学教授は, 2011 年の東日本大震災以降, 日本では甚大な災害に自国のみで対応できるだけの能力と責任を持つべきであることが強く主張されるようになった一方で, 実態としてはそれには及ばない状況であり, こうした現実への対応が重要な課題となっていることが指摘された。レイニー教授らは, 国内およびトランスナショナルな警備, 安心・安全な食料, 軍隊 (自衛隊) という 3 つの安全 (security) に関する領域を比較分析することで, 日本の政治・経済・社会構造の変

化を分析している。また、レイニー教授とはセッションの後も日本や日米関係に関する現在の様々な課題について意見交換する機会を得ることができ、多くの示唆に富む見解を伺うことができた。

APSAは非常に規模の大きい学会であることから、出張者の研究テーマに関連するセッションも数多く開かれており、そうした研究者の最新の研究結果を知るだけでなく、直接意見交換する機会を数多く持つことができた。今回の出張は、今後の研究を進める上でも非常に有意義であった。